ハガル ブラジル出身の元キリスト教徒

:

明:ブラジル人の言 学者によるイスラ ム改宗 。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 女性

より: ハガル

日15 Jun 2015

集日 14 Jun 2015

“??”??????39:9?

これが、私がクルア ンから感 を受けた最初の言 でした。これを んだ 、私は考え んでしまいました。私は「理解するために知らねばならないこととは何なのだろう」「知 の本 とは何なのか」について思い みました。

私たち自身の存在の意 について知ることができないのであれば、 して理 哲学 思想などを学ぶことに意味はあるのでしょうか。このジレンマに する欧米の答えは、私を欲求不 にし、不快感を与え、 望させ、 な 持ちにさせました。

当 、私はもう神を信じることができず、祈りも捧げられないようになっていました。そうした状 に ってしまった理由は、はっきりとは分かりません。以前は神を信じていましたが（私はプロテスタント系のクリスチャンでした）、ある日突然、 造主である神について考えることさえ、ばかばかしく思うようになったのです。

私は旧 新 を 日少しずつ んで学んでいました。そこには数々の素晴らしい言 がありましたが、私の知り合いには 一人としてそれを 践する人がいなかったため、それは事 上破されていたも同然でした。

人々の生き 、物事の 生、そして世界において一部の人々を他者よりも上位付ける取引や申し合わせなどを ると、私にとってそれらは非常に不公平で、世界は不正に ちているという　に しました。美しい　の言 も、人 によって作り出されたものに ぎませんでした。

宗教は 者や困 者に安らぎと 足感を与え、家畜のように 属させるものでしかありませんでした。それは生活におけるアヘンです。

私は思いました。「もし神がいるのなら、かれは冷酷で不公平だ。私は不公平な人々とは わり合いにならないし、不公平な神とも わり合いにはならない。」

私は　が 意味なものと感じ、自分の周りにいる他人のようになりたいと思ったこともあります。つまり仕事へ行き、 宅し、テレビを　し（ たこと全てを受け入れ）、おしゃれのためにショッピングしたりすることなどです。そのように生きれば幸福になれるかも知れないと考えました。しかし、私は ることのできない道にいたのです。それまでの人生で　きしたことによって、私は生きる理由を いだせなくなっていました。

私は存在がいかにしてもたらされたのかという 々な可能性について考えるのを止め、全宇宙が「偶然」によってもたらされたという主 を信じることにしました。そうした考え方をしていたときも、私は世界中で起きていた不正について 慨していましたし、少数派を援助しようと 意していました。たまたま、私はムスリムに焦点を当てイスラムについて学び始めました。それ以前には全くイスラ ムに しての知 はありませんでしたが、欧米 国が「テロリスト」と呼ぶ人々がどういう信仰を持っていたのか 味がありました。私は、もしテレビが彼らを だと めつけている 合は何かが されていること、そしてそれを　すべきだということを知っていました。

イスラ ムについて知るには、ムスリムに直接 いてみるべきだと考えました。私の祖国ブラジルには、あまり多くのムスリム コミュニティがありません。そこでインタ ネットを べてみると、多くのムスリムたちとチャットル ムで知り合うことができました。

あるサウジ人ムスリムの若者が、ニザ ル カッバ ニ について教えてくれたので、彼について べてみると「I am with
Terrorism（私はテロと共にある）」という を つけました。その は私が全く知らなかった出来事や 所について っており、私は自分の 知さを思い知らされました。私はそれらの事件を一つも知りませんでした。

ある日、チャットの友人と会 していたとき、クルア ンを むことのできるサイトを 介されました。私はそのサイトを し、 当な章を いて んでみることにしました。

章の名前はアラビア で かれており、友人にその意味を ねると、彼は「 判の日」であると教えてくれました。彼は、私がなぜその章を んだのか ねてきたのを えています。

私は彼に、もし神が存在するなら、かれは全知全能かつ遍在する存在でなければならず、 の言 では私に影 を及ぼすことはできないと言いました。私は希望の言 、つまり希望への 理的かつ 果的な言 を探しているのだと言いました。

当 の私は、 同じことを望んでいました。眠りから二度と目 めなければ良いと。しかし翌朝、私はいつも通り目 めたのです。それは耐え い段 に来ていました。

そして私はブラジルを去り、ドイツに来ました。

ある日、私はとても自暴自 になっていました。私はムスリムが行うお清めを本で んだ通りに行い、ムスリムがするように を地面につけてこう言いました。「神よ、もしあなたが本当に存在するのなら、私を今の境遇から救い出してください。私に道をお示しください。」

アルハムドゥリッラ （アッラ にこそ全ての称 あれ）。かれは私にお答えになりました。私はとても大きな安心感を得ました。

私が通っていたドイツ のクラスには、何人かのムスリム 妹がおり、彼女らにイスラ ムについての本を求めたところ、何 か持ってきてくれました。そのとき、私は始めてクルア ンを手にしました。アッラ が彼女らを祝福されますように。

クルア ンを むと、次のような章句を つけました。

“??????????????????????”??????51:56?

“??”??????25:20?

私が探し求めていたあらゆる答えがそこにはありました。

私の人生は わりませんでした。人生は依然として、殆どの 合困 なものです。 わったことといえば、人生に向き合う私の 度です。 いとしては、神が私の主でありワリ （庇 者）であることを知ることができたこと、そして神が私にお与えになったあらゆる祝福に感 できるようになったことです。

????42???

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/2678

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。